

まめなかの

発行責任者

隠岐広域連合立

隠岐病院長

隠岐の島町城北町

令和3年を迎えて



院長 長谷川明広



新年おめでとうございます。皆様におかれましては、心新たに新年をお迎えされたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスが全世界へ拡大し、歴史に残る年となりました。正体のわからないウイルスは、短期間で全世界の医療や経済に大きなダメージを

与えました。しかし、核酸増幅検査（PCR法）、濃厚接触者、クラスターの調査、三密を避ける、新しい生活様式など次々と新たな対応策を講じ、次第にウイルスの全貌が解明されつつあります。すでにワクチン接種を開始された国もあり、日本においても着々と準備が進んでいますので、年内のワクチン効果を期待したいところです。

当院においては、昨年9月1日から隠岐圏域の重点医療機関として新型コロナウイルス病棟を設け、コロナ患者の受け入れ体制を整えています。感染症外来、ドライブスルー診療も設置し、コロナウイルス抗原定量検査

を施行しています。そして、4月からは核酸増幅検査（TRC法）を導入予定です。隠岐の島町でコロナ患者が蔓延しても、病院の方針として、救急外来、透析外来、緊急入院、緊急手術、島外医療機関からの転院については何としても維持していきたい所存ですので、面会制限や検査の要請等でご迷惑をおかけすることがあるかも知れませんが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

一方、医師、看護師をはじめとする医療関係者の不足は続いています。特に医師については、偏在化の解消にはまだまだ時間がかかります。どの病院で働くかは医師個人の考え（キャリア形成）が中心であり、選ばれる病院にならないと常勤医師の確保に

は至りません。私が隠岐の島に帰郷出来たのは同級生からの後押しがあったからです。隠岐の島にゆかりのある医師、離島医療に協力的な医師に、私どもだけでなく住民の皆様と一体となつてのお声掛けが重要です。

最後に、当院が地域包括ケアシステムの中核病院として、地域の皆様から信頼していただける病院になるよう職員一同、力を合わせて努力して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

ホームページのご案内

当院のホームページは次のアドレスまたは右のQRコードでご覧になれます。外来担当医の一覧表や職員募集について、過去の広報誌等広く知って戴きたい事項を揃えています。（スマホ対応しています）

<http://www.oki-hospital.com/>



新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を再確認しよう～



・はじめに



マスクの表面は、汚れていると考え、触らないようにしましょう。また触ってしまった場合には手洗いをしましょう。感染している人からの飛沫を防ぐ効果は期待できないので、過信しないようにしてください。マスクは、症状等ある方が飛沫によって他人に感染させないために有効です。一方で、他人からの飛沫を防ぐ予防効果は相当混み合っていない限り、あまり認められていません。

(1) 手洗い

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。**外出先からの帰宅時、調理の前後、食事前**などこまめに手を洗いましょう。

正しい手の洗い方

手洗いの前に

- ・爪は短く切っておきましょう
- ・時計や指輪は外しておきましょう

1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。

2 手の甲をのばすようにこすります。

3 指先・爪の間を念入りにこすります。

4 指の間を洗います。

5 親指と手のひらをねじり洗いします。

6 手首も忘れずに洗います。

洗い終わったら十分水で流し、清潔なタオルやペーパータオルで良く拭き取り乾かします。
(なお院内のジェットタオルは飛沫感染防止のため当分の間使用できません。)

(2) 咳エチケット

咳やくしゃみをする際、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえることを心がけましょう。

咳 エチケット

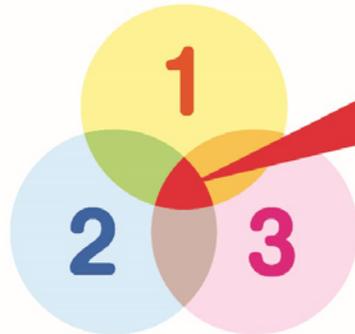
ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う 上着の内側や袖で覆う マスクを着用する

(3) 三密を避ける

集団感染は、①「換気が悪く(密閉)」②「人が密に集まって過ごすような空間(密集)」

③「不特定多数の人が接触する恐れが高い場所(密接)」という共通点があります。

できるだけ、そのような場所に行くことを避けていただき、やむを得ない場合には、マスクをするとともに、換気をする、大声で話さない、相手と手が触れ合う距離での会話は避けるといったことを心がけましょう。



3つの条件がそろう場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には
消毒などを行ってください。



厚労省 コロナ 検索

**・さいごに**

新型コロナウイルス感染症は、感染しても約 8 割は軽症で経過し、治癒する例が多いことが報告されています。

しかし、高齢者や基礎疾患をお持ちの方は、重症化するリスクが高いことが報告されています。

皆さまご自身を守るため、そして大切な人を守るため、ご協力をお願い致します。

職員募集しています**【看護師・助産師・保健師】**

『私たちと一緒に隠岐の医療を支えていきませんか?』

当院では、私たちと一緒に働いてくれる医療スタッフを随時募集しています。併せて病棟看護助手希望の方も募集しています。お仕事の内容等お気軽にお問い合わせ下さい。

詳しいお問い合わせ先は
総務課総務係 TEL08512-2-1356まで



小出名誉院長 医療功労賞受賞決定！！

山間部や離島、発展途上国など、厳しい環境のもとで長年、地域に密着した活動が続けてきた医療従事者を表彰する「医療功労賞」に、島根県からは当院の小出名誉院長が選ばれることとなりました。当院にとっても大変誇りに思うところです。

👉 受賞した小出名誉院長



「医療功労賞」は、過疎地や離島、被災地など国内外の困難な環境下で、地域に密着した医療・福祉・介護分野で活動が続けてきた方を顕彰する目的で読売新聞社（厚生労働省、日本テレビ放送網後援）が1972年（昭和47年）に創設しました。今回が第49回目となる中で、都道府県功労賞として島根県からは当院の名誉院長、小出博己先生が選ばれました。

小出先生は隠岐の島町出身。島根医科大学医学部を卒業後には、内科医として出雲市の病院などに勤務し、平成7年6月から当院で勤務。

平成7年当時、神経内科医が不在であったこの地域に専門医として、赴任されました。以後25年の長きに渡り神経内科医療のみならず、救急医療、リハビリテーション、人工透析など病院での医療に加え、無医地区の巡回診療、町立診療所支援等の多岐にわたって地域医療に携

わってきました。また、平成23年4月には、隠岐病院の院長に就任し、就任後は、当院の理念である『この島に住む、安心の医療』を常に意識され、離島という限られた医療資源の中、常勤医師の確保、救急医療の充実、医療人材の育成等、院長としての責務を果たしながら病院の管理運営にも尽力されてこられました。こういった地域医療活動が評価され、受賞が決まったものです。



69歳を迎えた今なお、神経内科、皮膚科、リハビリテーション、人工透析及び無医地区の巡回診療等の多岐にわたる地域医療に貢献されています。